

【人文・社会系】

研究課題名	認知発達 ¹ の霊長類的基盤
研究代表者	松沢 哲郎 (京都大学・霊長類研究所・教授)
研究の概要	人間を特徴づける認知機能とその発達的な変化の特性を知るうえで、「それらがどのように進化してきたか」という理解が重要だ。「進化の隣人」と呼べるチンパンジーを対象に、子どもからおとなになる過程（思春期：8—12歳の時期）での認知発達に焦点をあて、知性の発達の全体像を描き出すことを目的とする。京都大学霊長類研究所の1群とアフリカのボソソウの野生群を主な研究対象にする。比較認知科学の視点から、系列情報処理、概念形成、記憶、注意、情動などを解析し、「親子関係やコミュニティーのなかま関係を背景に、チンパンジーの認知機能の実態とその制約とは何か」、逆に「人間を特徴づける認知機能とは何か」を明らかにする。
研究者数・期間	4人（平成20年度～平成24年度）